

西市民病院だより

〒653-0013 神戸市長田区一番町2-4 | Tel 576-5251代 | Fax 579-1920 地域医療在宅支援室

リンパ球性下垂体炎

産婦人科 医員 田邊 昌平



いつも患者様をご紹介いただきありがとうございます。

2021年4月から西市民病院で勤務を開始しました田邊昌平と申します。当院産婦人科は新年度から部長の森島、新谷、市田、田邊、杉野の5人体制となりました。今後はより一層、外来・手術に力を入れて対応していく体制となりました。

今回は「リンパ球下垂体炎」という病気を紹介します。

リンパ球下垂体炎は下垂体に炎症が出る稀な疾患です。妊娠後期～分娩後の女性に多く発症します。有病率は100万人中5人とされますが、過小評価している可能性があります。

他の自己免疫疾患と関連あり（25-50%）、特に橋本病が多い（7-8%）とされます。稀に突然死することがあります。

主に下垂体前葉が病変となります。一般的な症状は頭痛で、これは海綿静脈洞へと炎症が波及することが原因です。また、第3/4/6脳神経麻痺による複視も起きることがあります。

初期に生じるホルモン異常はACTH欠乏であり、それに伴って低Na血症などの糖質コルチコイド欠乏症状が生じます。治療は高用量ステロイドの補充です。75%の症例で下垂体径が縮小し電解質異常が改善します。改善していること自体がリンパ球性下垂体炎の補助診断となります。難治性の場合は経蝶形骨洞手術が行われることがあります。

重要な点は、無治療で治癒が望めるのは3%程度という点です。よって、早期診断と治療が重要です。

分娩後の頭痛では子癇前症、PDPH、中心静脈洞血栓症が鑑別になりやすいです。中でも最近では無痛分娩の症例が増えてきており、その場合分娩後に頭痛が続くとPDPHが第一に疑われやすいです。しかし、分娩後に頭痛が長引く症例ではリンパ球性下垂体炎を鑑別するために電解質スクリーニングを行うことが検討されます。

分娩後の低Na血症としてはSheehan症候群が鑑別に上がります。Sheehan症候群は分娩後数ヶ月経ってから乳汁分泌不全を契機に発症することが多いとされ、また分娩時の出血コントロールがつきにくい発展途上国で多いとされるという違いがあります。

このように、とても稀ではありますが分娩後の頭痛の原因としてリンパ球性下垂体炎という疾患があることを頭の片隅においてもらえればと思います。

教室・助産師外来等のご案内

5階病棟師長 山口陽恵

● ほのほの教室 ● ※感染対策に配慮して実施

当院の妊婦健診を受診されているパパ、ママになる方を対象に母親教室と両親教室を水曜日（月3回）、日曜日（月3回）開催しています。

妊娠前期は妊娠中の過ごし方などを中心に、妊婦さんがより楽しく健康的なマタニティライフを過ごすことができるような内容となっています。

妊娠後期は、出産や育児、母乳栄養について参加者の方々と一緒に考えていきます。病棟の写真や当院で作成した妊娠初期から産後のことを記した本をお渡しし、出産までの間に入院生活がイメージできるようお手伝いさせていただきます。

また、出産準備として、陣痛中の過ごし方やお産の経過について必要な情報を知って頂き、少しでも不安を取り除いて安心してお産が迎えられ、赤ちゃんとの生活を安心してスタートしていただけるようサポート致します。

教室を受講した方からは、「妊娠中に知ることができたので、心や体の準備がしやすかった」とのお言葉をいただきました。アットホームな雰囲気たくさん質問して頂けますので、是非ご参加ください。



● マタニティヨガ教室 ● ※感染対策に配慮して実施

月に2回金曜日に妊婦さんに向けたマタニティヨガ教室を開催しています。

マタニティヨガは簡単なポーズが多く、ゆっくりとした動きの中でお産の時に必要な呼吸法やリラクセスを練習し、身体を整えることで安産を目指すものです。研修を受け、ヨガの指導員となった助産師が開催し、普段の生活の中ではなかなか意識して行えないゆっくりとした呼吸法を練習していただきます。実際に体験された方からは「お産の時に役立った」、「リラックスする時間が過ごせた」などと好評です。さらに妊娠中に起こりやすい腰痛などのマイナートラブルにも効果があります。助産師への相談や、妊婦さん同士のコミュニケーションの場としても利用していただいています。



● 助産師外来 ● ※感染対策に配慮して実施

助産師外来は、順調な妊娠経過をたどっている妊婦さんを対象に、助産師が妊婦健診を行います。医師の行う通常の妊婦健診と交互に受診しますが、完全予約制で30分程度の健診時間を設けておりますので、助産師と妊娠中の不安なことや気になること等、ゆっくりとお話をさせていただくことができます。基本的には予約の時間通りに健診を開始させていただいておりますので、待ち時間も少ないです。タイミングが合えば、赤ちゃんが元気に動く様子などを動画で撮影することもできます。助産師外来ではアットホームな雰囲気で、妊婦さんと私たち助産師との関係性が築けることを大切に、多くの妊婦さんが安心して来ていただけるよう心掛けています。



● すくすくサロン ● ※コロナ禍で現在中止しています。

1カ月健診以降の赤ちゃん和妈妈を対象に、すくすくサロンを開催しています。

すくすくサロンでは、親子の絆を深めるベビーマッサージなどの体験をしたり、子育て中のお母様同士で気軽におしゃべりしたりできる場です。他にも季節のテーマに合わせたお昼寝アートの撮影会や手遊びうた、栄養士による離乳食指導を行っています。

参加された方からは、「ベビーマッサージの方法を知ることができてよかった」、「他のママさんたちとお話できてよかった」、「相談ができて安心した」などのご意見をいただき、育児や家事で忙しく不安になりやすいお母様たちにとって、気分転換の場にもなっているようです。私たち助産師にとっても、すくすく育てているお子様に会えること、元気に頑張っておられるお母様達のお話をお伺いすることができ、とても嬉しく、また楽しい時間となっています。コロナ禍で現在中止していますが、再開すれば是非お越しください。



地域医療在宅支援室からのご挨拶

院長代行・地域医療部長 中村 一郎

地域医療在宅支援室長 高橋 千香

地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護・保健・福祉関係の皆様方には日頃から当院へのご支援をいただき感謝しております。新型コロナウイルスに対して、令和2年の感染拡大当初は発熱患者の診療及び、PCR検査のできる医療機関が限られており、当市民病院に対する期待の大きさに困惑することもありました。当院は、土日祝日も含めた発熱外来での診療をはじめ、地域医療機関において対応が困難な発熱患者の受入れを行い、コロナ専用病棟を開設、増床し、中等症以下のコロナ陽性患者の入院受入れを行ってまいりました。この1年間余りでPCR検査や抗原検査等、地域の病院や診療所等でも随分対応していただけるようになり、皆様の御尽力に感謝いたしております。

現在神戸市内でのコロナ入院待機患者が多いなか、保健所と連携して当院で電話診察を行い、必要時はデキサメタゾン等の処方をし、患家にお届けてしています。その後、できる範囲でかかりつけ医でのフォローをお願いしており、ご協力を賜りたいと存じます。

当院におけるコロナ専用病棟の運営は、一般病棟をダウンサイジングし機能を一時的に落としてでも、市民病院として対応すべき重要な使命であると認識しております。そのためには、アフターコロナの患者さんを初め一般患者さんにおいても、速やかな転院や施設調整、地域との連携による退院調整が必須です。入院ベッドの制約から救急の応需を止めざるを得ないときもあつたり、当院外来から緊急転送をお願いすることも多々ありました。このような病床数が限られた中での円滑な退院、療養調整は皆様のご協力なくしてはできないことであり、後方連携をさせていただいている地域の医療関係者の皆様には日頃の感謝の気持ちをお伝えたく、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。コロナ禍での緊迫した医療情勢が続きますが、患者さんや家族の意向も尊重しながらできるだけ速やかに、今後も退院支援・調整を行っていきたいと思っています。引き続きのご支援を賜りたいと存じます。

昨年度はかかりつけ医の先生方への逆紹介がすすむよう努力してまいりました。救急入院等がかかりつけ医からの紹介状をいただいている時や転科した場合などでも、退院時に当院からの情報提供をお渡しするように努めておりますが、情報提供できていない場合は遠慮なく当院へお問い合わせいただければ幸いです。

昨年度は開設50周年記念事業として市民公開講座（記念特別講座）、地域連携のつどい、訪問看護ステーションとの交流会、西市民連携セミナー（テーマ：「西市民病院でのCOVID-19」）はコロナ禍の隙間を縫ってなんとか集合開催できました。また、院内外多職種交流会は「with コロナ時代 いま私たちにできること」をテーマにハイブリッド方式で開催しました。院外のWEB参加者からは「オンラインでの参加でしたが、大変心に沁みました、大変な最中に工夫をされての開催。地域連携を止めない、という意気込みを感じました。」と、温かい感想をいただき、励みになりました。今年度もWEBを中心とした開催が主になると思いますが、コロナの感染状況をみながら、可能であれば感染予防に十分配慮した様式で地域の皆様に参加していただき、顔の見えるより良い連携が図れたらと願っております。

認知症疾患医療センターでは、助成制度を使つての認知症鑑別診断を受ける方は不要不急ということで後回しになるためか、受診数は減少しております。そのため待機はほとんどなく予約がとれますので、必要時はぜひご利用ください。昨年度は、MCI（軽度認知障害）の患者さんを対象とした音楽療法は開催できませんでしたが、長田区医療介護サポートセンターに協力を得て事例検討会を実施したほか、神戸市認知症疾患医療センター合同研修会をWEB開催で行うことができました。

今年度も当院が地域に根差した中核病院として急性期病院、地域医療支援病院としての役割を果たしつつ、COVID-19の対応に職員一丸となり取り組んでまいります。当部署は地域との連携の窓口として、きめ細やかな対応や事業展開をしていきたいと考えております。引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

～在宅療養支援のためのオープンカンファレンスのお誘い～

当院では、治療が一段落した患者さんが地域で安心して在宅療養生活を送ることができるように地域医療機関や介護サービス事業者のみならずとの連携に努めているところですが、その一環として、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業者との交流会を毎年開催しています。

交流会では、当院の地域医療在宅支援室のメンバーを紹介するとともに、グループワークを通してお互いの情報共有と相互理解を深め、顔の見える連携により、在宅療養を送る患者さんに対して、必要な支援を円滑に行えるようにすることをめざしています。この交流会のディスカッションで頂いたご意見やご要望をもとに、当院の看護サマリーの見直しも行いました。

交流会は下記のとおり訪問看護ステーションを対象としたものと、介護支援専門員を対象としたものを用意しております。

◆訪問看護ステーションとの交流会

【過去の開催内容】

年 度	テ ー マ
平成28年度	「地域との情報共有のあり方」
平成29年度	「より良いエンドオブライフケアの実現に向けて何をすべきか～各自が取るべきアクション」
平成30年度	「顔の見える連携を！」
令和元年度	「Let's ACP 人生会議を考えてみましょう」 講師：はまの医院 院長 濱野聖二先生
令和2年度	「コロナ禍における現場での困りごと」 講師：当院看護部部長・感染管理認定看護師 俣木陽子

◇令和2年度の参加者の声

- ・情報を集めるのに苦慮したが、最新の情報を得る事ができた。
- ・他のステーションの事情が分かった。

◆ケアマネジャーとの交流会

【過去の開催内容】

年 度	テ ー マ
平成28年度	地域との情報共有のあり方
平成29年度	「より良いエンドオブライフケアの実現に向けて何をすべきか～各自が取るべきアクション」
平成30年度	「より良い医療・介護を提供するためのノウハウ」
令和元年度	「Let's ACP 人生会議を考えてみましょう」
令和2年度	新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止

◇令和元年度の参加者の声

- ・「死生観まで聞き取れるアセスメントをしていくことが大切と感じた」



◆今年度の交流会について

未だに新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、医療機関では面会制限が続くなか、患者と家族が安心して暮らすための退院前カンファレンスについて考えたいと思います。今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、直接集合しての交流会の開催が困難なため、オンラインでの開催を予定しています。

オンラインのメリットは、病院に足を運んでいただかなくても、事業所や自宅からでも参加できますので、お気軽にお申込みください。今後は、交流会のみならず退院前カンファレンスの開催にも積極的にオンラインを利用したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【直近の予定】

○市内訪問看護ステーションとの交流会（オンライン開催） 下記のとおり	○ケアマネジャーとの交流会（オンライン開催） 令和3年7月15日（木） 17：45～19：15 テーマ：コロナ禍での退院前カンファレンスについて考える ～患者さんご家族が安心して地域で暮らすために～
---------------------------------------	--

9月・1月には在宅療養カンファレンス、12月には院内外多職種交流会の開催を予定しております。

令和3年度 市内訪問看護ステーションとの交流会(オンライン開催)のご案内

今年度も市内訪問看護ステーションとの交流会を下記の日程でオンライン開催いたします。

日時 令和3年6月17日（木） 17：45～19：15

テーマ コロナ禍での退院前カンファレンスについて考える

～患者さんご家族が安心して地域で暮らすために～

自施設の紹介と退院前カンファレンスにおいて当院に求めること、
オンラインでのカンファレンス実施状況等について意見交換

申込み方法

【メールのみの受付】

- ①氏名 ②ステーション名 ③職種 ④メールアドレス
⑤電話番号を入力の際は、下記アドレス宛てにお申し込みください。
締め切りは、6月3日(木)

(申込メールアドレス) w_kouza@kcho.jp

- ・参加において、氏名の入力をご施設名+氏名にてお願いいたします。(例：〇〇訪看△△)
- ・事業所内で複数人お申込みされる場合、お申し込み時に参加者全員の氏名をご連絡ください。



【オンライン研修参加方法】

6月10日(木)までに視聴 URL（招待メール）をご連絡いたします。

交流会開催にあたって、オンラインツールは「ZOOM ズーム」を使用する予定です。

オンラインツールに変更がある場合は、事務局よりご連絡のメールを致します。

操作方法について当院ではお応えいたしかねます。

(ご注意!)スマホで参加の場合は、ご契約の料金プランによっては通信料が高額になることがあります。

問い合わせ：地域医療在宅支援室 大路 樋浦 藤田 Tel：078-576-5251(代)

医師の転出・転入等のお知らせ

【転出等 4月30日付】

所	属	補	職	氏名
麻酔科		専攻	医	三宅 悠介

【転入等 5月1日付】

所	属	補	職	氏名
麻酔科		専攻	医	宮沢 嘉英

Table with columns for Department/Clinic (診療科/診療室), Date (月), Time (午前/午後), and Doctor (富岡, 網本, 和田, etc.). Includes sub-sections for Internal Medicine (内科), Pediatrics (小児科), Surgery (外科), etc.